

会 議 録

会議の名称	令和 5 年度第 3 回那珂川市図書館協議会		
開催日時	令和 6 年 2 月 7 日(水) 10:00~12:00	開催場所	ミリカローデン那珂川 研修室 1
出席者	<p>1. 委員 河井委員、笹渕委員、原委員、松永委員、鳥飼委員、平野委員、中島委員、加峰委員 (欠席者)白水委員</p> <p>2. 執行機関(事務局) 大鶴図書館長、襖田図書館運営課長、岩野図書館運営課係長、八田図書館運営課主任、吉岡文化振興課長、藏菌文化振興課文化振興担当係長、小林文化振興課文化振興担当主事</p>		
配布資料	<p>資料 1-1: 令和 5 年度図書館事業経過報告について(11 月~12 月)</p> <p>資料 1-2: 令和 5 年度 利用状況</p> <p>資料 1-3: 令和 5 年度「出張図書館」利用状況</p> <p>資料 2: リニューアルオープンに係る広報なかがわの連載企画について</p> <p>別添資料: 団体・学校向けのサービスについて</p>		
公開区分	<p>開示 ・ 一部開示 ・ 非開示 (理由: 情報公開条例第 9 条第 1 項第 4 号に該当)</p>		
<p>議題及び審議の内容</p> <p>1. 会長挨拶</p> <p>先日、関東圏に出かけた際に教文館という書店に寄ったら、「岩波子どもの本 70 周年企画展」をしていた。岩波少年文庫は児童書の走りともいえる文庫で、それまでは自分が小学校の頃に図書館に行っても、あまりおもしろくない創作物が並んでいた中で、岩波文庫は外国語翻訳のととも質の高い物語が揃っていた印象が強い。まさに戦後の児童書のはじまりだったかと思うが、その創刊 70 周年を記念した企画展に、孫を連れて遊びに行ったのだが、その中から「どうぶつ会議」という本を孫が読んでほしいと選んできた。低学年向けの挿絵のある物語だが、久しぶりに読むと、結局、人間がいつも会議をしてもめて、戦争を起こして、子どもがかわいそうだから動物たちが世界中の動物を集めて会議をしようという話の展開で、今読んでも全く違和感がない内容に感心したし、ロングセラー本の力みたいなものを久々に実感した。リニューアル後の那珂川市図書館が、そういう名作を子どもたちにたくさん渡せるような図書館になってほしいと思う。そのために本日も皆さんのお知恵をお借りしたいと思うので、よろしく願いたい。</p> <p>2. 報告</p> <p>(1) 令和 5 年度図書館事業経過報告について(11 月~12 月)</p>			

(図書館運営課長から説明) 別紙説明資料 1-1~1-3 のとおり

【質疑応答】

[会 長]: リニューアル工事で図書館が休館している中で、何ができるかということをしごく考えられて、いろいろと対応してこられた成果が感じられる報告だった。事業経過報告の中のおはなし会について、小学校高学年向けのおはなし会は毎年やっているのか。参加者が多いと感じたので、定着してきている印象を受ける。

[事務局]: 毎年定期的に行っている。今年度については休館の影響で、例年に比べ回数が少し減ったり場所が変わったりしている部分はある。

[会 長]: 素晴らしい取り組みだと思うので、リニューアル後も継続してほしい。

[事務局]: 継続して実施する予定である。

[委 員]: 質問というわけではないが、休館中にミニ図書館や出張図書館サービスを実施していただいて、利用者としても、本当にありがたかった。小学校での読み聞かせの本選びにも役立った。

[会 長]: 出張図書館については、令和 6 年度もサービスを行う方向で検討されているということで、この機会を足がかりに、引き続き図書館サービスを充実させていただけたらと思う。

(2) リニューアルオープンに係る広報なかがわの連載企画について

(文化振興課文化振興担当主事から説明) 別紙説明資料 2 のとおり

【質疑応答】

[会 長]: 続けて紹介していくことで、浸透させることができるので、連載企画は非常にいい企画だと思う。

[委 員]: 私は、広報紙の音声訳のボランティアしており、担当しているのが表紙から大体 10 ページ前後までの内容のため、ちょうどこの「図書館のチカラ」を読むことができる。2 月号にボリューム 1/4 と書いてあったので、4 回シリーズに分けて載るということが分かり、しごく楽しみながら紹介させていただいた。先ほどの説明では、2 月号は読書バリアフリーに関する紹介で、3 月号以降は異なるジャンルの紹介になるようだが、2 月号の内容は読書バリアフリーの中でも視覚をサポートするような内容が多く、全く目が見えない人に対するサービスの紹介が含まれていなかった。例えば電子図書館サービスの中には音声で楽しめるものもあると思うが、その辺りについてはどのように考えているか。

[事務局]: 読書バリアフリーサービスについては、前回の第 2 回図書館協議会でもご紹介したとおり、全てを網羅的に紹介すると、それだけで 4 回分の紙面を使い切ってしまうほどの分量になってしまう。今回の連載企画については、図書館が行っている様々なサービスを異なる視点から紹介し、市民のみなさまに図書館の魅力を知ってもらいきっかけにさせていただけたらと考えているため、どうしても紹介しきれない部分は出てきてし

まうが、この記事を引きかけに各自で調べたり、図書館に来館いただき、実際にサービスを利用してもらえたらと思う。

[委員]：紙の広報紙だけでなく、広報紙の音声訳の CD もあわせて図書館に置いていただくことはできないか。またそういった CD は通常の機械では再生できず、専用の再生機器が必要なのだが、今後の話として、その機器も置いていただけないか。市役所の福祉部署には置いてあるはずだが、高額なもので、なかなか移動させるのは難しいという話も聞いたことがある。広報の音声訳の利用者自体がすごく少ないという現状もあるため、ご協力いただけたらありがたい。

[会長]：専用の機器については、今回のリニューアルオープンに間に合わなくても、今後の検討事項として、まずは予算化をしていくところからお話を進めていただけたらという意図でよろしいか。

[委員]：会長のおっしゃった通りの形でお願いしたい。リニューアルオープンに向けて、「図書館のチカラ」ということで、毎回内容を変えて記事を出されるのは、リニューアルオープンへの期待感を高めるのでとてもいい企画だと思う。

[事務局]：音声訳の CD を置くことについては、リニューアル後すぐにでも対応できるのではないかと思う。機器の設置については今後の検討事項とさせていただきます。

[委員]：図書館のバリアフリーサービスについては、例えば人権週間の時期とか、別の機会でも特集を組まれたらいいのではないか。

[会長]：確かに今回限りで終わらせず、1年に1回でも、2回でも特集を組んでいただいて、そこで図書館ではこういうサービスをも受けられるという情報を伝えていくことが大切だと思う。

[委員]：毎年、時期を決めて何月頃だったら載っているという認識が広まれば、見てくれる人も増えるかもしれない。現状は毎月、情報ボックスの部分におはなし会の情報が小さく載っているだけなので、今回のようにリニューアルオープンを機に大きく掲載していただけるのは嬉しい。「図書館に行こう」の連載が個人的にお気に入りだったので、なくなってしまって残念なのだが、会長のおっしゃるとおり年に1回でも図書館のお知らせをしてくれたら嬉しい。視覚障がい者の人にとって、本を読むことはハードルが高いが、少しでも読書を楽しめるように、ボランティアとして活動している時は、虫の声のクイズからはじめて、その虫に関連する図鑑を紹介するなど、少しでも読書を楽しんでいただけるよう工夫している。広報の音声訳についても、今後も様々な工夫をしながら図書館の魅力を視覚障がいのある人にも伝えられたらと思っている。

[事務局]：市の秘書広報担当とも相談のうえ、検討させていただく。

3. 議題

(1) リニューアルオープン後の図書館について

(図書館運営課係長から説明)

リニューアル後の図書館についてスクリーンにフロアマップやイメージ図を映しながら紹介した。

【質疑応答】

[委 員]：子どもたちの学習スペースというのは、サイレントルームを使うイメージなのか。また、どのくらいの座席が利用できそうか。

[事務局]：サイレントルームはあくまで図書館内で静かに過ごしたい人のための部屋なので、読書もできるし、学習もできる部屋というイメージである。サイレントルーム以外にも館内には机や椅子を多く配置しており、椅子の数だけでいうと図書館全体で100席近くになる想定である。これまでの図書館は、館内での持込み学習はお控えくださいという方針だったが、今回のリニューアルを機に、滞在型の図書館を目指していこうという方針が変わったため、子どもたちが図書館に勉強しに来て、それを職員が止めるということはないだろう。サイレントルームを含め館内に自主学習ができるスペースはあるが、専用の学習室という機能を持たせているわけではないため、利用者みんなで共有しながら、お互い譲り合いながら、学生の居場所としても使っていただけたらと考えている。利用についての細かいルールについては、図書館内部や市含めて検討を進めている段階である。

[委 員]：学習スペースについて、イメージ図を見る限り、ティーンズルームの机の数が少なく、中学校・高校の試験前は数が足りなくなる気がする。特に中学校はそれぞれの学校の試験期間が近く、中学生が一斉に来ると、席が足りなくなるのではないかと思う。

[事務局]：その懸念はあるが、あくまでも図書館の一角なので、もし朝来て席が空いていなかったら別の場所を探してくださいというご案内をする形になると思う。ミリカのエントランスも併せて利用はできるし、夏季休暇中などは、ミリカの会議室を自習室として開放した事例もあるため、貸館の予約状況との兼ね合いもあるが、できる限りミリカ全体で協力して対応していきたいと考えている。一方で、来年度については、生涯学習棟が工事で使用できないため、今年度のような対応が難しい部分もあるがご理解いただきたい。

[会 長]：赤ちゃん向けのコーナーの床は除菌しやすさや衛生面も考慮し、県立図書館では絨毯ではなく、板張りで床暖房を入れているのだが、那珂川市図書館の赤ちゃん向けコーナーはどうか。

[委 員]：会長もおっしゃる通り、アレルギーがある子は、絨毯だと使用をためらってしまう場合もある。

[事務局]：絨毯になる予定だが、ご意見いただいたとおり、衛生面については考慮したい。

[委 員]：ふれあいこども館の床は板張りで、床暖房はないが、赤ちゃんは裸足で元気に歩き回っているの、絨毯のところがあってもいいし、フロアのままのところがあってもいいと思う。工事の工期の関係で今から対応ができない部分もあると思う。

[会 長]：ライトノベルなど、YA 向けコーナーの本を大人の方が借りていくことも近年は多いと思うが、ティーンズルームが部屋として独立してしまうと YA 向けの本を大人が借りにくいということはないのか気になる。

[事務局]：会長がおっしゃったことも予め考慮し、YA 向けの本については、ティーンズルームの外の書架に配架する予定である。

[委 員]：個室スペース等を余りにも長い時間同じ人が利用し続けると他の利用者が利用できないということもあると思うので、少し時間の制限をつくる必要はあるのではないかな。

[事務局]：細かいルールについては検討中だが、できるだけ多くの人にご利用いただけるよう、予約制や時間制限含め検討していきたいと考えている。

[委 員]：中学生のように制服を着ている若い世代が図書館にいるというのはすごいことで、そういう子たちも利用しているというのが図書館にとっての本当の喜びでもあると思う。ビブリオバトルを市内3中学校全てで取り組まれていて、子どもたちと本との距離感が近いということも良い影響を与えていると思う。そのまま高校生、大学生になっても読書が続けもらえるように、中学生にとって利用しやすい、行きたいと思われるような図書館であってほしいと思う。

[委 員]：幼稚園でも、これまで芋掘りの帰りに図書館によって、1人1冊ずつ本を選んで借りる経験をさせていただいて感謝している。幼稚園に通っている子も様々で、保護者が読書好きであれば、お休みの日も図書館に連れて行ってもらえるが、なかなか連れていってもらえない子もたくさんいる。そういう子たちにも図書館で本を借りる喜びを教えてあげられたらと思っている。リニューアルを機に幼稚園としても、これまで以上に保護者に働きかけたり、幼稚園としてたくさん利用させていただけたらと思っているし、本日の説明を聞いて新しい図書館に子どもたちを連れて行くのが楽しみになった。

(2) 団体・学校向けのサービスについて

(図書館運営課主任から説明)

図書館が現在行っている団体・学校向けのサービスについて、別添チラシ等を利用して説明した。

【質疑応答】

[委 員]：学校への図書館職員派遣等のサービスについて、学校の先生は忙しく、チラシ等を見て情報を頭に入れてるつもりでも、忘れてしまうということも多いだろうと思うので、積極的に周知をしていく必要があると思

う。また、私は幼稚園に勤めていた経験があるので、「読み聞かせ入門講座」「保護者のための読書案内」の部分は本当に大事だなと思う。私は2歳の孫によく読み聞かせをしているが、絵本に対してすごく興味を持っていて、破れないような厚い絵本を渡してあげると自分でページをめくったりする。絵本は3歳ぐらいからでないと読むのは難しいと思うかもしれないが、1・2歳でも、最初は遊びながらではあるが、自分でページをめくることを覚える。だんだん使い方が分かるようになってきたら、普通の絵本も読めるようになっていく。幼い頃から本に出会う経験がものすごく大事だと思う。微力ながら読み聞かせのボランティアもしているが、やはり図書館に通わせてくれる保護者と図書館に無関心な保護者両方いて、両者にすごい差があると感じる。子どもも同様で図書室に毎週のように行く子となかなか足を運ばない子どもがいて、それがものすごくもったいないと感じる。リニューアルもあってこれだけ図書館が綺麗になって、周りにチャンスがいっぱいあるのに、スルーしてしまっている子がいると残念に思う。幼い頃からなるべく子どもにとっていい本と出会わせてあげるべきということを、市や公民館、図書館、ボランティア、学校、子どもの読書に係る全員が認識し、連携して取り組まなければいけない。そうしなければ子どもに対する読書推進の進み方は緩いと思う。読書をすることによって、学校の授業を理解する力がつき、人の気持ちを理解できる子になっていくと思うので、それはこの協議会の大きな議題にもつながることだと思う。子どもたちがキラキラときれいな目を輝かせている時期に良い本に出会えるように大人たちが努力すべきだと思う。

[委員]：今回配布したチラシ等の内容はホームページにも載っているのか。

[事務局]：図書館のホームページに掲載している。

[委員]：この職員派遣は学校や団体向けということで子ども向けのサービスなのか。

[事務局]：要望があれば高齢者向け等、年齢を問わず対応させていただいている。

[委員]：那珂川市では、図書館協議会とは別に「子ども読書活動推進委員会」もあり、私はそちらの委員も兼任しているが、子どもたちに対して、読書を推進していく方針が会議の場できちんと決められている。その方針をもとにいろいろな取り組みが行われており、子どもたちにとっては非常に良い環境ができており、ありがたいと思う。一方で、アンケートの結果を見ると保護者の読書に対する関心はなかなか高まっていかないという現実もあり、難しい部分もあると思う。幼稚園ではこれからもそれぞれの学年で読み聞かせを実施したり、保護者に対して読書推進のアンケート結果を工夫してお伝えしたりする等の取り組みを続けていきたい。

[会長]：職員派遣のチラシについて、「読み聞かせ入門講座」「保護者のための読

書案内」の項目が「その他」に含まれており、目につきにくい印象がある。1項目ずつピックアップしてPRするやり方でもいいかもしれない。広報・啓発の部分は図書館の苦手な部分でもあると思うので、特に力を入れて取り組む必要がある。ブックスタートで本を手にとって、幼稚園、小学校、中学校と読書の習慣がつけば、それから高校、大学を経て、大人になってもしっかり本を読むという人が増えてくる。そしてその人たちが次は保護者になり、子どもに本を読む。その流れというか読書のサイクルをきちんと作って、それをバックアップするのが図書館の役目でもあると思う。

[委員]：読書ボランティア連絡会の中で紹介されていた取り組みとして、那珂川北中学校の生徒が保育所に出向いて子どもたちに読み聞かせをするという読書推進の取り組みがあり、素晴らしいと思った。恐らく読み聞かせをする前に事前学習をして、読み方など先生の指導を受けて準備されたのだと思うが、例えばそういった取り組みに図書館が参加して生徒のサポートをするというのも良いと思う。子どもたちは、本を読む側から読んで聞かせる側になることでより本の魅力を知れるし、図書館がサポートすることで、学校の先生の負担を減らすこともできるのではないか。

[会長]：小学生や中学生が、同じ学校の低学年の生徒や保育所の子どもなどに向けて読み聞かせをするのは非常に良い取り組みだと思う。子ども同士の方が言葉遣いなども近く内容が伝わりやすく、聞く側も受け入れやすいため、大人が読み聞かせをするより効果的という話もあり、同じ本でも大人が面白いと薦めるよりも、子どもたち同士で、これ面白いから読んでみてと言った方が読んでみたくなるということもあるだろう。そういった意味では、読書リーダーや読書サポーターの養成講座を毎年やっていると思うので、その子たちの活動の場を用意してあげてほしい。せっかく養成したのに、いざ講座が終わるとその子どもたちの活動の場がほとんどないという現実もある。地域によっては、図書館のおはなし会に、中学生や小学生がスタッフとして参加するというやり方をしているところもあるが、結局、講座が終わった後は、それぞれの学校で取り組みましょうという形で終わってしまって、なかなか学校以外で活動する場がないという場合もある。養成講座を通していろいろな知識を得た子どもたちがその知識や経験を十分に活用できるよう、学校内の読み聞かせや、校外でのおはなし会、図書館でのボランティア活動などにつなげるための仕組みづくりを、学校と図書館が連携して行っていく必要があると思う。国や県が策定した子ども読書活動推進の基本方針でも、「連携」が明言されている。

[委員]：ボランティアとして、市内の7小学校で続けてきた読み聞かせの活動が30周年を迎え、初めの方に読み聞かせを聞いていた子どもたちが、お父

さんやお母さんの世代になっている。子どもの頃から読み聞かせを日常的に経験してきた世代なので、今度は自分たちが親になってもその子どもたちに読み聞かせをしてあげるといった習慣が根付きつつあると思う。これからもその感覚が続いていくよう活動を続けていきたい。

[委員]：コロナ禍以前は、中学生の読書リーダー養成講座の一環で、図書館のおはなし会に中学生がスタッフとして参加するという取り組みをやっていたと思うが復活の可能性はあるのか。

[事務局]：今年度については図書館が休館中ということもあり実施できなかったが、来年度以降は実施の方向で検討していきたい。

[会長]：この会議の場に限らず、委員のみなさまがアイデアを思いついたタイミングで、図書館に伝えていただければと思うし、これからもいろいろ知恵を出し合いながら市全体の読書活動を推進してもらえたらと思う。

4. その他 那珂川市教育委員会（文化振興課）からの報告事項 図書館リニューアル工事の進捗状況等について事務局から説明。

[会長]：以上をもって第3回那珂川市図書館協議会を閉会する。